



グースフィニッシャーによる敷きならし

スグー 舗質ア 橋梁基層に売り込み 大林道路 ひび割れ抵抗性10倍

大林道路は、橋梁の鋼一改質グースアスファルト床版舗装の基層に用いる舗装の性能を再評価し、

提案活動を強化する。従来のグースアスファルト

に添加していた天然アスファルトの代替として改質アスファルトなどを使用することで製造が容易になった上、耐流動性や曲げ疲労抵抗性など舗装の耐久性が向上している。このほど開通した愛媛県宇和島市の九島大橋新設工事にも採用されており、橋梁新設工事のほか、今後増加が見込まれる長大橋や高速道路などでの全層打ち換えなどでの採用拡大を目指す。改質グースアスファルトは、ポリマー系の改質アスファルトに特殊添加剤を混合して製造する。従

来品で使用していた針入度20〜40のストレートアスファルトと天然アスファルトのトリニタッドレイクアスファルト(TLA)に比べ、材料が入手しやすく、製造が容易になっている。

材料を専用の攪拌(かくはん)装置付きクッカー車で現場に運び、グース用フィニッシャーで敷きならす施工方法は従来と同じ。転圧不要な「流し込み施工」が可能で、添接版などの凹凸部でも隙間なく敷きならすことができる。

現在までに、九島大橋を含め7カ所、1万8535平方メートルの実績があり、従来品と比較した性能評価では、交通荷重によるダメージの蓄積で発生するわだちを防ぐ耐流動性が2倍、ひび割れに対する曲げ疲労抵抗性が10倍となるなど耐久性が向上。天然アスファルト独特の臭気も少なくなるので、施工環境の改善にもつながる。

使用し、TLAを小割にする作業などがなくなるため、製造・施工コストは従来とほぼ同等に抑えられるという。

同社は、鋼床版を温めて接着層を軟化させることでアスファルトの剝離・撤去を容易にする「IH式舗装撤去工法」と組み合わせ、今後増加が見込まれる大規模修繕工事への採用へ積極的に提案活動を展開する方針だ。

経路性については、特

殊添加剤を使用するため

材料コストはやや高めた

が、ベースの改質アスフ

ァルトに一般的な材料を